

ご挨拶



内分泌攪乱化学物質による人や生態系への影響については、現代に生きる私たちだけではなく将来の世代への影響も懸念される問題として、国民に大きな不安を与えております。来るべき21世紀においてだれもが安心して暮らせる社会を築いていくためには、この内分泌攪乱化学物質に対する不安を早急に取り除いていくことが行政に今求められている重大な任務と考えております。

環境庁においては、環境ホルモン戦略計画SPEED'98を一昨年に策定し、環境実態調査を全国一斉に行う等の取組を進めるとともに、国際的な連携の下に諸外国や国際機関との情報交換を進めています。

この一環として、平成10年の京都に引き続き、平成11年には神戸で「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を開催し、世界の第一線の研究者の参加の下、質の高い議論が活発に展開され、国内外から高い評価をいただきましたが、この成果を更に発展させるために、第3回国際シンポジウムをこの度横浜市において開催することとしました。

今回のシンポジウムの主なねらいは、

- ・ 内分泌攪乱化学物質問題に関して得られた最新の科学的知見を明らかにし、今後の研究の方向を模索すること。
- ・ 国際協力のもとで進められている本問題への取組の現状を把握し、更なる国際協力の在り方を探ること。
- ・ 生態系を守ることは人に対する安全性の確保にも繋がるという基本理念を再確認すること。

の3点です。

この国際シンポジウムが、世界各国の科学者、行政担当者、産業界そして国民にとって、意義ある会議となることを希望しております。

環境庁長官

川口 順子